

“Bath” terminal

～旧温泉街の新駅開業に伴う綱島温泉再生計画～

都市空間生成研究室

2041021

宇田川 雄大

| | | |
|------|------|--------|
| 新駅開業 | 旧温泉街 | 郊外住宅地 |
| 再開発 | 地域資源 | 都市デザイン |

1. 研究の目的と背景

神奈川県横浜市の北部に位置している綱島地区は、東急東横線の綱島駅と 2023 年春に開通した東急新横浜線の新綱島駅の 2 路線が乗り入れている。そして、新駅開業によって現在両駅周辺は再開発が行われており、転換期を迎えている。

綱島は東京の奥座敷といわれるほどの温泉街の歴史を持っているが、近代の交通インフラの整備や新駅の再開発によって温泉が衰退していき、現在温泉街としての歴史は見る影もなくなっている。

そこで本研究は、温泉郷の過去を持つ綱島で地域資源・歴史を活かした綱島温泉の再生を目的としている。ただの郊外住宅地ではなく、ベッドタウンとしてさらなる価値向上を目指し、住宅街と駅間のワンクッションとなるターミナルを計画する。また、隣駅となった新横浜など広範囲から来街者が訪れることが予想されるため、駅周辺の整備も本計画に組み込む。



図 1. 計画対象地

2. 計画対象地の歴史

2-1. 綱島の地形の変遷と街区形成

1926 年に綱島温泉駅が開業したことをきっかけに駅周辺の区画整理が行われ街区が整えられている。1940 年代に入ると駅周辺は農地から用途転換されており、1970 年代には農地のほとんどが住宅や商業に用途転換され、その頃に現在の街の骨格が出来上がっている。

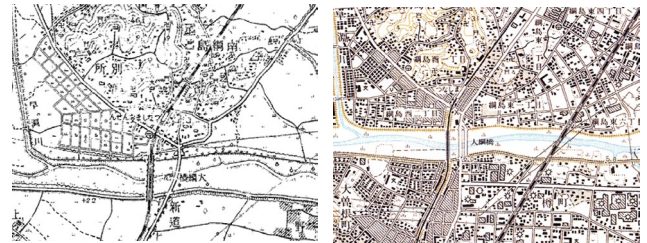


図 2. 綱島の国土地理院地図(左: 1927 年・右: 1975 年)

2-2. 綱島温泉の歴史と変遷

1914 年から温泉の歴史が始まり、綱島温泉駅の開業(1944 年に戦時体制により綱島駅に改称)と戦後の歓楽街として栄えた時期の 2 度ピークがあるも、1960 年代の交通インフラ整備をきっかけに箱根や熱海など地方温泉地へのアクセスが向上したことにより綱島温泉は衰退していき、郊外住宅地化したと考える。綱島は都心部に近いことから交通インフラに左右されていると考え、現在新駅開業によって新たに転換期を迎えているこのタイミングで温泉再生を郊外住宅地である綱島にて計画する。

3. 計画対象地の実態と地域特性

3-1. 計画対象地の実態

綱島は、駅周辺の商店街を中心に商業系資源があり、商店街を抜けると住宅街と自然文化資源が混在している。また、新駅再開発事業が 2 地区 3 事業で行われており、駅周辺の整備が行われるが、それにより綱島エリア最後の温泉である駅前温泉(旧電鉄直営浴場)が取り壊されたのも事実である。

3-2. 綱島の地域課題

そして、フィールドワークや現状・歴史調査を通して、見えてきた地域課題は、郊外住宅地化していく過程で温泉がなくなってしまったことである。都心近郊で温泉に入れるという他の郊外住宅地ではできないポテンシャルが綱島にある。さらに、新駅の利用者が少なく意義を感じられないため、新駅に降りたくなる仕掛け作りが必要である。また、現在両駅ともに駅前広場や歩道の整備がされていないため、歩行者空間の整備をすることで駅前混雑や自動車と歩行者の交錯などの課題解決を図る。

4. 計画案

4-1 計画コンセプト

計画コンセプトは"Bath" terminal である。公共交通の bus terminal はそこに着いてそこから家や職場などの次の目的地に行く・帰るための発着点である。入浴する際には運動をして汗を流したあとや朝スッキリしたいなどの事前に入りたくなる理由がある。綱島温泉の歴史があることとベッドタウンである特徴をもつ綱島で入浴行為を各場所で起こりうるアクティビティと掛け合わせることで歴史を遺しつつ新たなベッドタウンの形を示していく。

4-2 計画詳細

1) 各"Bath" terminal での入浴

本計画では各場所で起こるアクティビティと滞在時間を想定した計画を行っており、入浴も同じく各場所のシーンや滞在時間を想定した bath を提案する。



図 3. 浴場断面パース

2) 鶴見川ランニングステーション- 川"Bath" terminal -

本計画地では屋外アクティビティを対象としており、主にランナーやサイクリストのためのステーション機能を配置する。また、綱島付近の鶴見川の土手では川釣りをする人や BBQ を行う人などアクティビティが現在も多くみられるが整備されているわけではないため、本計画に屋外アクティビティを行う広場を整備するとともに備品レンタルスペースを設ける。その場所をイベントスペースとしても開放し、収益を運営管理の資金に充てる。



図 4. 鶴見川ランニングステーションパース

3) 綱島ラウンジ - 駅前広場"Bath" terminal -

本計画地では駅前広場を交通ハブとして利用してもらうための仕掛けを配置する。バスの待合所に入浴行為を掛け合わせ足湯 (bath) を設ける。また、現状のタクシー乗り場の課題解決として、広場横にタクシーと一般車用のロータリーを配置する。そして、空港ラウンジのよう

に次の目的にいくまでの隙間時間で作業できるようにコワーキングスペースを設ける。



図 5. 綱島ラウンジパース

4) 綱島のココ天 - 商店街"Bath" terminal -

本計画地では駅前商店街を歩行者中心の空間とするために商店街の一部道路を歩行者専用道路とし、課題の駅前混雑や自動車と歩行者の交錯を緩和させる。現在植木などによって隠されている歴史のタイルを改めて街路に整備することによって綱島の歴史や地域資源を商店街内で示していく。また、ポケットスペースや街路ベンチの整備も行っていくことで駅前商店街の活性に寄与する。



図 6. 綱島のココ天パース

4-3. マネジメント

本計画は公民連携組織「綱島まちづくり団体」を結成し、本計画の運営管理を行っていく。また、川エリアは河川区域に計画するため、今後親水空間活用として Park-PFI のような制度が出てくることも考えられ、そうした制度を見越して、計画に活用し運営管理を行っていく。

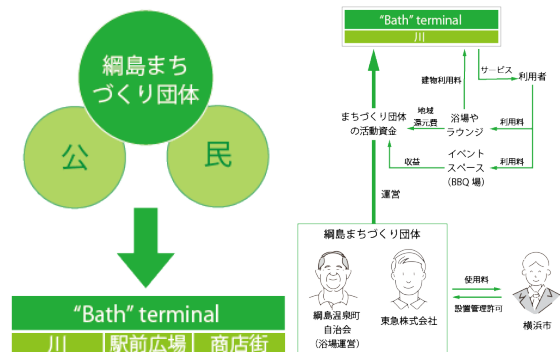


図 7. マネジメント図

参考文献

- 1) 岩田忠利, 「わが町の昔と今 港北区版」, とうよこ沿線編集室, 2020年3月
- 2) 横浜市, [<https://www.city.yokohama.lg.jp/>]